

## ③1 船場川水系船場川洪水調節施設整備事業

受賞機関 兵庫県 中播磨県民センター 姫路土木事務所

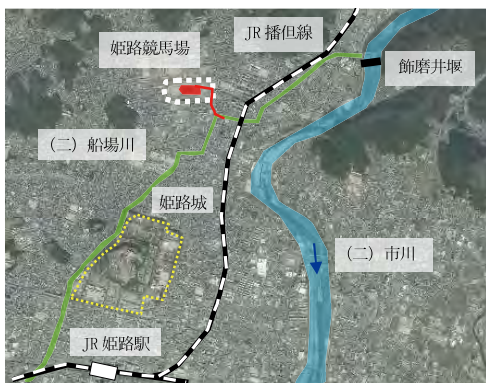
キーワード 競馬場、調節池上部利用、地域活性化

### 全建賞審査委員会の評価ポイント

姫路城下を流れる船場川における調節池の整備。既存の姫路競馬場のコース内側を掘り下げ導水することにより、多くの用地買収と物件移転を避けて早期の治水安全度向上が図られた点や、上段池は人工芝で覆ったサッカー場としても整備され、整備前の緑地景観を保ちつつ地域に親しまれた施設となっている点が評価された。

### 1. はじめに

船場川は、姫路市街地北部にある飾磨井堰で市川から分かれ、姫路城の中濠と並行しながら、中心市街地を貫流し、播磨灘に注ぐ二級河川である。船場川流域は、過去から地形上の理由により浸水被害に見舞われてきた。こうした姫路市の中心市街地を流れる船場川の河道改修には、多くの用地買収と物件移転が伴うことから、多大な事業費と期間が必要であった。そのため、早期に出来る限り広範囲にわたる洪水被害の軽減に向け、県営姫路競馬場のコース内側にある芝生広場を掘り下げ、洪水調節池として有効活用した洪水調節施設整備事業を平成21年度に着手し、令和元年度末に完成した。



(二) 船場川洪水調節池位置図

### 2. 事業の概要

船場川上流域では、平成16年10月の台風23号により、姫路競馬場周辺の市街地で179戸の家屋が浸水するなどの被害が発生していた。

同規模の洪水に対し、早期に治水安全度の向上を図るため、洪水を一時的に姫路競馬場内の調節池へ貯留する施設（16m<sup>3</sup>/s調節）を整備した。船場川洪水調節施設は、洪水調節池（A=約25,000m<sup>2</sup>、貯水容量 V=約120,000 m<sup>3</sup>県下最大）、導水トンネル（φ3.5m L=570m）、分

水施設からなり、分水地点で計画流量の45%カットが可能となり、平成31年3月16日に竣工式を迎え、平成31年度より本格運用に移行している。



競馬場内にある調節池

### 3. 事業の成果

甚大な被害が発生した平成16年10月の台風23号（24時間降雨量約150mm）と同規模の洪水に対して、水位を約0.8m低下させ、姫路城周辺市街地の浸水を解消することが出来る。

競馬場のコース内側芝生広場は従来から多目的グラウンドとして利活用されていたが、平常時にもより多くの住民に利活用してもらうため、調整池整備に合わせて兵庫県競馬組合が新たに人工芝のサッカー場を整備し、地域に親しまれる施設として地域活性化に寄与している。

また、工事期間中は周辺自治会を通じて、広報誌「(二) 船場川 姫路競馬場 洪水調節池 だより」を年に4回、各700部を配付し、出前講座等のイベントも実施するなど周辺住民に理解と協力を得ながら事業を進めた。

### 4. おわりに

船場川洪水調節池の貯留機能は、平成30年6月に完成したが、その直後の平成30年7月豪雨では、船場川流域においては洪水調節がはじまる水位に至らなかった。その後も船場川流域内で大きな洪水はないが、完成式典時に地域の方々からは「これで安心出来る」等の声を頂くなど今後の浸水被害の軽減効果が期待されている。平常時のサッカー利用に加え、施設のPRも含め近年のゲリラ豪雨等想定以上の雨が降った場合の行動啓発等防災に対する意識の向上も図る施設としての利用も行っていきたい。

賛助会員 (株)建設技術研究所、玉野総合コンサルタント(株)、(一財)建設物価調査会、日本振興(株)、三井共同建設コンサルタント(株)